

a 学校教育目標	<p>夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体 キラリと光る三つ巴っ子～</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命) 自他を認め合い、児童・教職員が、ともに成長できる学校風土を創造する。 【ビジョン】(自校の将来像) 確かな学力と心身ともに健康な児童を育成し、すべての児童が、自ら考え協働的に行動する学校</p>
----------	--	------------------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	<p>◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上</p>	<p>・三つ巴っ子タイムの実施内容の充実 ・R80の振り返りを、次時の課題設定や授業改善に活用する指導方法の定着</p>	<p>・全国学テ及び市で実施する学力テスト等において、国語科、算数科の全国平均以上の児童の割合 ・R80の振り返りを次時の課題設定や授業改善に活用していると回答する指導者の割合</p>	80%	国62% 算47%	国49% 算56%	国61% 算70%	C	<p>・国語科においては初見の文章を読む力や条件に合わせて書く力、算数科においては基礎的な計算や数学的な見方・考え方を生かして問題を解く力に課題が見られた。 ・振り返りの視点を示したことで児童の振り返りの質が向上し、教員はその記述から児童の学びに対する新たな思いや問いなどを見取って授業改善に生かすことができています。</p>	<p>・標準学力調査で明らかになった各学年の課題改善に向けた学力補充計画を立て、計画的に取り組む。 ・R80の実態や振り返りの記述に変容が見られた児童に対する効果的な指導・支援について交流し、お互いの実践を参考に振り返りの質の向上を高めていく。 ・児童が次の学びへつながるような問いを見出すための手立てを考えていく。</p>	5			<p>・目標に対して達成度はいま一步のところもあるが、子供たちが楽しく授業を受けている。校長先生を先頭に各先生方も目標に対し、しっかり取り組んでおられる様に感じ、学校全体が明るく楽しい場所になっている。 ・学力について、達成できなかった部分も迅速な対応をされている事が素晴らしい。 ・すべての事につながるであろう読解力について、引き続き取り組んでいきたい。 ・全国学力テストや標準学力調査等の客観的な結果を評価項目にしているのが良い。 ・国語力は全ての教科のもとになるので、今後も読解力をしっかり身につけてほしい。 ・毎時間、めあてと振り返り(R80)が継続されているのは素晴らしい。 ・授業を受ける姿勢が崩れる児童が少なくなったように感じる。</p>
	<p>○生活科・総合的な学習の時間における探究的な学びを通した自ら学ぶ力の育成</p>	<p>・児童の思いや願いに基づいた学びを展開していけるような単元構成の工夫 ・自己の学びや成長を実感できるような振り返りの充実</p>	<p>・「振り返りや話し合いの場で、児童が自己の考えを表現している」と回答した指導者の割合 ・探究的な学びの過程を振り返り、自己の学びや成長について記述することができた児童の割合</p>	85%	94.1%	94.5%	111%	A	<p>・教員が振り返りを課題設定や授業改善に活かしたり、児童が「話したい」と思えるように問いかけ等を意識して行ったりしたことで、児童が自己の考えを表現できるようになっている。 ・ルーブリックを各教室に掲示し、視点を示したことで目指す振り返りのイメージを持たせることはできた。しかし、書くことが苦手な児童にとって視点を示すだけでは記述することが難しかったと考える。</p>	<p>・話し合いでは、児童が「話したい」と思えるような必然性のある学びの展開を考える。 ・振り返りにおいては、引き続きルーブリックを活用して児童に視点を示す。さらに、教員が意図的指名を行って具体を示すことで、児童がイメージを持てるようにしていく。</p>	5			
豊かな心	<p>◎コミュニティ・スクールの良さを生かし、地域(人・もの)と関わり、地域を愛する児童の育成</p>	<p>・地域ゲストティーチャーや読書ボランティアなどの積極的な活用 ・各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間等で地域学習の導入</p>	<p>・感謝の気持ちを表現できたと回答する児童の割合</p>	95%	94.2%	94.65%	99%	B	<p>・児童アンケートの結果から児童の日常の挨拶や学校行事での姿、総合的な学習の時間での発表などを通して、地域の方への感謝の気持ちを持ち、表そうとしていることがわかった。 ・各学年の生活科や総合的な学習の時間において、地域の方々をゲストティーチャーとして積極的に招聘した。</p>	<p>・さらに感謝の気持ちを深めるために挨拶を継続して行うとともに、行事や日常の学校生活の中で頑張る姿を地域の方に見ていただく機会を設定していく。 ・地域の方から学んだことを児童自身が積極的に発信しようとする意識を高めていくこともコミュニティ・スクールの取組を充実させる上での課題である。</p>	5			<p>・今年に入ってから、児童の挨拶が良くなった。 ・6年生を中心に、帽子をとって気持ちの良い挨拶をよくしてくれるようになった。 ・朝の登校時、横断歩道で止まってくれた車に対して、帽子をとってきちんとおじぎをしている児童の姿を見かけ嬉しくなった。 ・引き続き、6年生が中心となって気持ちのよい挨拶を続け、本郷小学校の伝統にしてほしい。 ・学校全体があいさつ運動に対して積極的に発信して、行動に移している事が素晴らしい。 ・地域と学校と家庭が手を取り、一人一人がすくすくと育ち、生きる力を養ってほしい。</p>
	<p>○児童が安心して過ごせる学校風土の醸成</p>	<p>・児童の発想を生かした、児童会活動や学級活動の工夫 ・教職員、家庭、関係機関などの情報共有と組織的取組</p>	<p>・学校が楽しいと回答する児童の割合</p>	90%	93.3%	93.90%	104%	A	<p>・低学年:98.5%・高学年:89.3% 全体の約8割が「友達との関わり」を学校生活を肯定的に捉える理由として挙げていた。一方で、学習の難しさや人間関係への不安を理由に、学校生活を肯定的に捉えられていない児童も1割程度見られた。 ・教職員間での情報共有や連携を意識し、日常的に他学年の教員とも積極的に対話を促した。</p>	<p>・児童の抱える不安感(学習・友達との関係等)に関する聞き取り等を行うために、長期休業前後やいじめアンケート後などの面談を通して、担任や学年で把握する。 ・校内で起こった事案等を全教職員で連携を行い、一貫性のある指導体制を構築し、小さな変化を共有し合うことで、事案の早期発見と組織的な解決を目指す。</p>	5			
健やかな体	<p>◎基礎体力の向上</p>	<p>・体育科授業の工夫と改善 ・サーキットトレーニング等継続した体づくりの取組 ・学級レクなど、遊ぶ楽しさを感じる体験活動の充実</p>	<p>・雲梯が半分以上できる児童の割合(%) ・縄跳びの高速前跳びが30秒で70回以上できる児童の割合(%) ・体を動かすことが好きと回答する児童の割合</p>	70%	未実施	82.7%	118%	A	<p>・授業開始の5～7分間で遊具を使ったサーキットトレーニングや縄跳びに継続して取り組んだことで目標をほぼ達成することができた。特に、低学年の伸びが大きく、向上するにつれて縄跳び練習への意欲も高まった。</p>	<p>・授業前に主運動につながる準備運動やサーキットトレーニングを取り入れることで、基礎体力の向上を図る。</p>	5			<p>・体力向上の項目が雲梯と高速縄跳びになり、数値目標が具体的に分かりやすい。 ・雲梯や縄跳びについては、低学年にとっても取り組みやすく、前期と比べて成果が出ているところも良い。 ・大休憩や昼休憩は、先生たちも外で子供と一緒に遊んでいるのが良い。子供たちにとって、先生と一緒に遊べるというのはとても嬉しいことだと思う。 ・外あそびDAYは、先生にとっては大変なこともあると思うが続けていきたい。</p>
	<p>○清掃活動の質の向上 ★無言、時間いっぱい、隅々まで</p>	<p>・掃除の仕方の指導の徹底 ・短期集中取組期間の設定</p>	<p>・短期集中取組期間に教師の見取りによる「無言」「時間いっぱい」「隅々まで」ができる児童の割合(%)</p>	80%	76.5%	90.0%	112%	A	<p>・「外遊びDAY」として、外遊びをする日を週2回設定し、教師も可能な日は児童と一緒に外で過ごした。</p>	<p>・遊ぶ体験の充実を図るために、体育集会や児童会活動を児童と共に企画する。</p>	5			
信頼される学校	<p>◎説明責任を果たし、信頼される学校・教職員</p>	<p>・学校運営協議会を活用した、地域・家庭・児童の実態・願いの把握 ・全職員が輪番で主担当になる参加型の服務研修の計画的実施</p>	<p>・保護者アンケート「本郷小学校は安心して子供を通わせることができる」の肯定的回答 ・不祥事ゼロ</p>	90%	97.8%	98.3%	109%	A	<p>・学校運営協議会で寄せられた意見、各学期に実施した保護者アンケートや全児童対象の面談等を通して得られたことを学校運営に反映させることができた。それぞれの思いや願いを把握し、地域・家庭・学校が一体となった体制の構築につながった。 ・毎月テーマを変えて参加型の服務研修を実施し、教職員の不祥事の防止への意識を高めることができた。</p>	<p>・引き続き、学校運営協議会やアンケート等を通じて地域・保護者・児童の声に真摯に耳を傾け、学校運営への迅速な反映に努めていく。 ・毎月テーマを設定した参加型の服務研修を継続し、全教職員が自分事として不祥事防止を捉える場を確保していく。</p>	5			<p>・それぞれの部に関わる課題について、その都度改善策を考え実行してもらっているところが有り難い。 ・温かい学校(先生方)の中で、子供たちがのびのびと育っている。丁寧な指導の中で力をつけて頂き感謝している。 ・保護者アンケートからも学校の取組が肯定的に評価されている。</p>
	<p>○働き方改革</p>	<p>・各部を中心とした、計画的・組織的な業務運営 ・授業観察や面談を通じて、個々の職員の実態把握と評価</p>	<p>・時間外勤務時間45時間以下を6か月以上 ・「仕事にやりがいを感じている」と回答する職員の割合</p>	100%	5/6	6/6	100%	A	<p>・2月まで45時間以下達成が10月である。忙しい時期であっても、計画的に業務を行い、早期退校を心掛ける風土が根付いている。</p>	<p>・行事や成績処理を行う繁忙期においても業務の優先順位を明確にし、組織的・計画的な学校運営を推進することで、早期退校を心掛ける風土を維持していく。 ・校内体制で若手への伴走型支援を強化し、精神的なゆとりを持てるようにする。また、業務の精査や役割の分担を適宜見直し、中核層の多忙感の解消を図る。</p>	5			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:わからない。 ハ:自己評価は適正でない。